

**時間**  
午後1時  
～  
午後3時  
**場所**  
遊楽館

※参加をご希望の方は、当日参加料を持参ください。  
●参加料 500円(飲み物・飴・歌集代)  
主催：すみれの会 後援：真室川町教育委員会

# 郷土の英傑 鮭延秀綱物語 ④



## 四、秀綱人質と庄内武藤氏

永禄六（一五六三）年、武藤氏に敗れた佐々木貞綱、氏孝親子は仙北に逃れた。しかし在郷で養育されていた秀綱（源四郎）は置き去りにされ、武藤氏の居城尾浦（現鶴岡市）に連れて行かれた。

武藤氏は大宝寺氏ともいい、当初は大宝寺（鶴岡市）に居城を構えていた。天文元（一五三二）年、晴時の代に砂越氏（現酒田市）に攻められ落城焼失。以後、大山尾浦へ居城を移した。晴時の後を継いだ義増の時代に、武運が上向き庄内一円を制圧。その後鮭延攻略、二年後には大蔵清水城をも攻めている。義増から家督を継いだ義氏も、外圧を重ねて勢力を拡大していった。織田信長に鷹や馬を贈り「屋形」号を許されたのもこの頃である。また「出羽守」の官位も得ていた。

武藤氏の人質として入った秀綱は、義氏の小姓として奉公していたという。どのような生活をしていたか不明であるが、後の秀綱を知る時、文武の基礎がこの時代に培われたのではないだろうか。

「悪屋形」と呼ばれた義氏であったが、秀綱には特に目



尾浦城跡

をかけ、成長を楽しみにしていたように感じられる。秀綱にとって義氏は畏敬の武将であり、「奥州にて隠れなき鬼神のよう」にいわれたもう屋形にて御座候」と秀綱は評した。天正十（一五八二）年、秀綱二十一歳のとき義氏は、家老衆と相談して庄内から城代を置いて支配していた鮭延城を、秀綱に任せることにした。その年の冬、秀綱は鮭延郷に入部した。義氏は「源四郎は若いがしつかり者と見える」と褒め称え、義氏の言葉を裏切らない秀綱の活躍はこれから始まるのである。

（真室川町歴史研究会）

## 表紙の紹介

### 秋の到来を告げる番楽とともに

今回の表紙は町内の三つの番楽に入部を当ててみました。ここで、クイズです。どの写真が、どの番楽かわかるかな？



【答】①平枝番楽 ②釜淵番楽 ③八敷代番楽